



NTN 株式会社

2025 年 3 月期第 1 四半期 決算 IR 説明会

2024 年 8 月 2 日

イベント概要

[企業名]	NTN 株式会社
[企業 ID]	6472
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2025 年 3 月期第 1 四半期 決算 IR 説明会
[決算期]	2024 年度 第 1 四半期
[日程]	2024 年 8 月 2 日
[ページ数]	26
[時間]	17:00 – 17:48 (合計：48 分、登壇：19 分、質疑応答：29 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	4 名 取締役 代表執行役 執行役社長 CEO (最高経営責任者) 鵜飼 英一 (以下、鵜飼)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



取締役 執行役 CFO（最高財務責任者）

山本 正明（以下、山本）

グループ経営本部 コーポレート・コミュニケーション部長

長尾 立雄（以下、長尾）

グループ経営本部 コーポレート・コミュニケーション部

高下 和久（以下、高下）

[アナリスト名]*

JP モルガン証券

佐野 友彦

大和証券

田井 宏介

みずほ証券

伊藤 辰彦

野村証券

王 博瓊

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com



登壇

長尾：それでは定刻となりましたので、NTN 株式会社、2025 年 3 月期第 1 四半期決算 IR 説明会を開始いたします。本日はご多忙のところ、当社の決算 IR 説明会にご参加くださり、誠にありがとうございます。

はじめに、出席者をご紹介いたします。執行役社長 CEO、鵜飼でございます。

鵜飼：鵜飼です。よろしくお願いいたします。

長尾：執行役 CFO、山本でございます。

山本：山本です。よろしくお願いいたします。

長尾：事務局は私、コーポレート・コミュニケーション部の長尾と、高下の 2 名で務めます。よろしくお願いいたします。

高下：よろしくお願いいたします。

長尾：本日は、はじめに決算のポイントについて社長の鵜飼より説明し、その後、2025 年 3 月期第 1 四半期決算の実績等について、CFO の山本よりご説明申し上げます。説明後、質疑応答を行い、18 時に終了の予定です。

それでは鵜飼社長、よろしくお願いいたします。

鵜飼：NTN の鵜飼です。本日はお忙しい中、当社の決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また日頃より株主、アナリストの皆様には多大なご支援をいただきまして、この場をお借りして御礼申し上げます。

決算内容、および業績予想の詳細、利益の増減分析などにつきましては、CFO の山本から詳しくご説明いたしますので、私からは 2025 年 3 月期第 1 四半期決算のポイントについて、ご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2025年3月期第1四半期

売上高： 2,108億円（前年同期比+100億円） 内、アフターマーケット向け 354億円

営業利益： 45億円（ " +30億円）

営業利益率： 2.2%

－ 軸受他

売上高： 843億円 営業利益：33億円 営業利益率：3.9% **前年同期比 減収減益**

日本、欧州、アジア他を中心に需要減となり減収、売価改善を進めるが規模減の影響が大きく、減益

－ CVJ アクスル

売上高：1,265億円 営業利益：12億円 営業利益率：1.0% **前年同期比 増収増益**

アジア他を除き需要減少の一方で為替の影響もあり増収、売価改善および費用削減が進み増益

2025年3月期通期業績予想

期初予想を据え置き

（参考）売上高：8,600億円 営業利益：320億円 営業利益率：3.7%

©2024 NTN Corporation 2

2 ページ目をご覧ください。売上高は 2,108 億円、営業利益は 45 億円と、円安による為替の影響もあり、前年同期比で増収増益となりました。

アフターマーケットビジネスは売上高 354 億円と、前年並みにとどまりました。軸受他では、売価改善、および費用削減を進め、円安による為替の影響もありましたが、全地域で需要が減少したことにより、売上高は 843 億円、前年同期比マイナス 32 億円となり、営業利益は 33 億円の黒字、前年同期比マイナス 5 億円となりました。

CVJ アクスルでは、アジアを除き需要が減少した一方で、売価改善、および費用削減に加え、円安による為替の影響もあり、売上高は 1,265 億円、前年同期比プラス 132 億円となり、営業利益は 12 億円の黒字、前年同期比でプラス 36 億円となりました。

なお、今期の業績予想については期初の予想を据え置きます。

私からの説明は以上です。

長尾：鵜飼社長、ありがとうございました。続きまして CFO の山本より、業績の詳細をご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

① 2025年3月期 連結主要指標



(億円)	'24年3月期		'25年3月期					増減			
	1Q 実績 ①	通期 実績	1Q 実績 ②	2Q 見通し	上期 見通し	下期 見通し	通期 見通し (前回公表)	合計	対前年同期 ②-① 除く為替	為替	
売上高	2,008	8,363	2,108	2,192	4,300	4,300	8,600	100	△ 73	174	
営業利益 (率)	15 (0.7%)	281 (3.4%)	45 (2.2%)	65 (3.0%)	110 (2.6%)	210 (4.9%)	320 (3.7%)	30	2	28	
経常利益	19	200	22	38	60	160	220	3	△ 23	26	
特別損益	-	△ 34	-	-	-	△ 80	△ 80	-	-	-	
親会社株主に帰属 する当期純利益	16	106	2	18	20	30	50	△ 15	△ 31	16	
棚卸資産	2,550	2,648	2,739				2,420	(※) 91	△ 10	101	
フリーキャッシュ・フロー	121	401	△ 46				240	△ 167	-	-	
為替レート 1USD	137.2円	144.5円	155.7円	145.0円	150.4円	145.0円	147.7円	18.5円			
1EURO	149.4円	156.7円	167.7円	160.0円	163.8円	160.0円	161.9円	18.3円			
'25年3月期年間配当	11.0円		(中間5.5円・期末5.5円)								

(※)棚卸資産は24年3月末よりの増減額

©2024 NTN Corporation 3

山本：ここからは、山本がご説明いたします。まず、3ページをご覧ください。連結主要指標です。

今期の第1四半期の実績は、売上高が2,108億円、営業利益45億円、経常利益22億円、当期利益2億円となりました。

売上高や営業利益の前年同期との増減比較、および棚卸資産、キャッシュ・フローの状況については、後ほどご説明いたします。

スクリーンの右側に対前年同期の②-①の欄がございますが、経常利益が前年比で23億円減少しております。この主な要因は、為替差損益。前期に為替差益が計上され、当期が若干の為替差損の影響がございました。また当期利益が2億円となっておりますが、これは当第1四半期で、税効果会計の影響で税負担率が大きくなった影響でございます。

先ほど鶴飼からの説明のとおり、通期の業績見通しは変更しておりませんが、今回、上期の見通しを開示しております。上期と下期の営業利益の増減についても、後ほどご説明いたします。

サポート

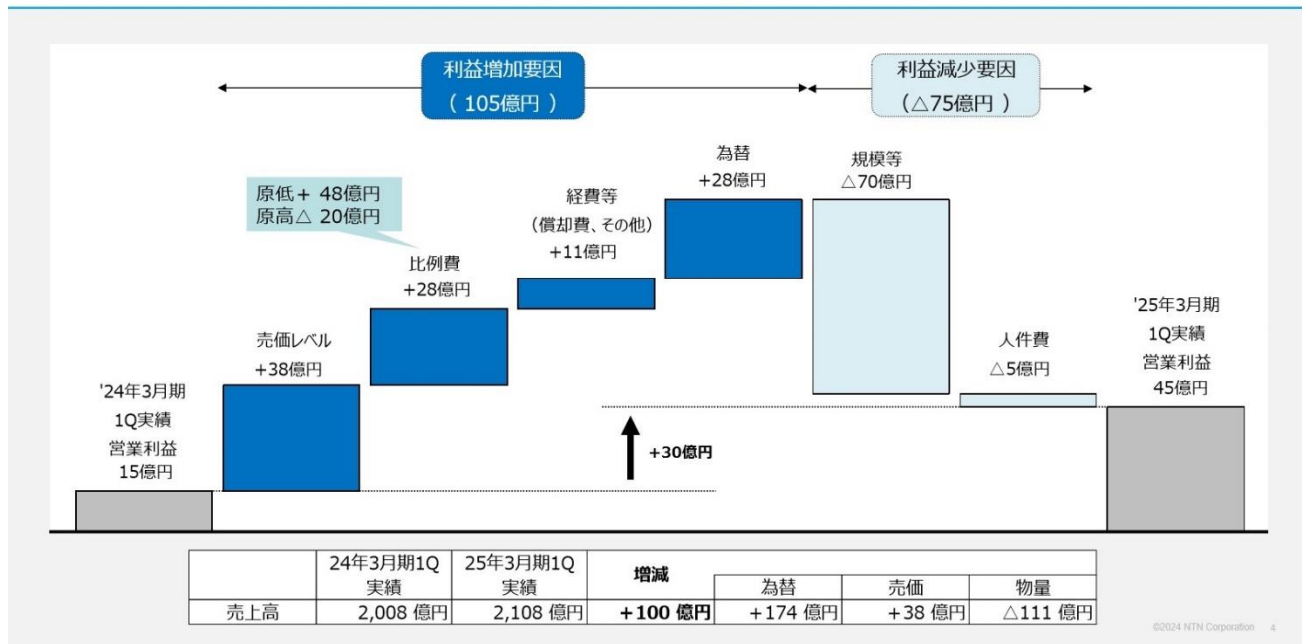
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



②-1 営業利益増減

『24年3月期 1Q <実績>
vs 『25年3月期 1Q <実績>

NTN



続きまして、4 ページをご覧ください。前年同期との営業利益増減分析の滝グラフです。左端が前年同期の営業利益額 15 億円、右端が当第 1 四半期の営業利益額 45 億円です。

グラフの下に、売上高の増減表を記載しております。為替と

売価を除くと、物量では前年同期比 111 億円の販売減となっております。右側の利益減少要因で最も大きいのが、今申し上げました販売減、それに伴う生産減、および在庫評価の影響で、規模等がマイナス 70 億円の悪化要因となっております。また人件費につきましては、これは主に欧州でマイナス 5 億円の減益要因となっております。

一方、左側の利益増加要因では、販売規模減下での、売価レベルの向上がプラス 38 億円、それから比例費がプラス 28 億円、経費の圧縮がプラス 11 億円、それに為替の効果が 28 億円ございました。

サポート

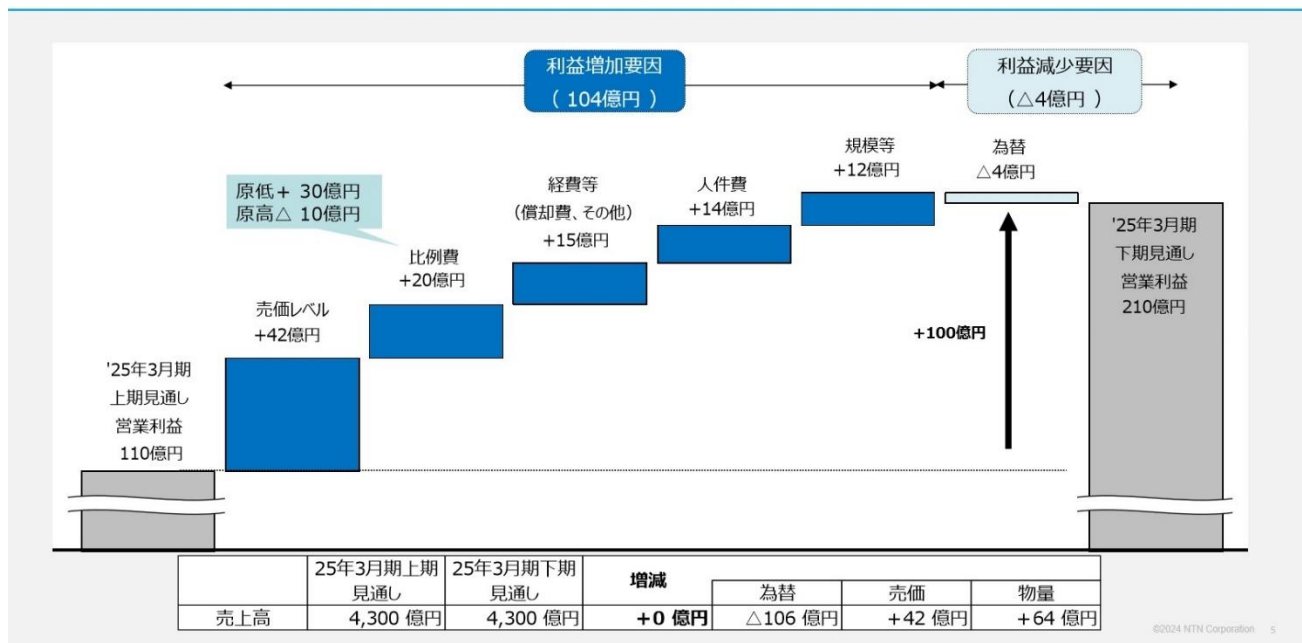
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

②-2 営業利益増減

『25年3月期 上期 <見通し>
vs 『25年3月期 下期<見通し>

NTN



5 ページをご覧ください。今回開示いたしました上期見通しと、それから下期の見通しの営業利益の増減分析の滝グラフでございます。左端が上期見通しの営業利益額 110 億円、右端が下期見通しの営業利益額 210 億円です。

先ほどの表と同じく、グラフの下に売上高の増減評がありますが、為替、売価を除く物量では、下期は上期比プラス 64 億円の販売増を見込んでおります。また上の表の利益減少要因は、為替のマイナス 4 億円のみでございます。

一方、左側の利益増加要因は、昨年同様、値上げ交渉の大半が下期に決着することを想定し、売価レベルでプラス 42 億円、比例費でプラス 20 億円、あと主に国内での経費の圧縮を織り込み、プラス 15 億円。それから生産性向上による人件費圧縮、プラス 14 億円を見込んでおります。

なお、規模の増加につきましては生産を抑えることで、販売の物量増の 64 億円に対しては、抑えた数字を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

③地域別売上高

(億円)	'24年3月期		'25年3月期		増減		
	1Q 実績 ①	通期 実績	1Q 実績 ②	通期 見通し (前回公表)	合計	対 前年同期 ②-① 除く為替	為替
日本	508	2,100	491	2,225	△ 17	△ 17	0
米州	649	2,747	745	2,730	96	7	89
欧州	430	1,715	448	1,835	18	△ 31	49
アジア他	420	1,801	424	1,810	4	△ 33	36
合 計	2,008	8,363	2,108	8,600	100	△ 73	174

©2024 NTN Corporation 6

次に6ページをご覧ください。地域別の売上高です。右側の②-①除く為替の欄をご覧ください。合計でマイナス73億円の減収ですが、先ほどご説明したとおり、売価レベルプラス38億円ございましたので、これを除くと物量では111億円の減収となります。

その物量ベースの増減の地域別を申し上げますと、日本でマイナス32億円、米州でマイナス8億円、欧州でマイナス36億円、アジア他でマイナス35億円、うち中国がマイナス24億円となりました。やはり欧州、中国での販売の減少が目立った状況でございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

④事業形態別売上高・営業利益



<事業形態別売上高>							
(億円)	'24年3月期		'25年3月期		増減		
	1Q実績 ①	通期実績	1Q実績 ②	通期見通し (前回公表)	対前年同期 ②-①		
					合計	除く為替	為替
軸受他	875	3,468	843	3,570	△ 32	△ 92	60
CVJ アクスル	1,133	4,895	1,265	5,030	132	19	113
合計	2,008	8,363	2,108	8,600	100	△ 73	174

<事業形態別営業利益>							
(億円)	'24年3月期		'25年3月期		増減		
	1Q実績 ①	通期実績	1Q実績 ②	通期見通し (今回公表)	対前年同期 ②-①		
軸受他	38	177	33	187	△ 5		
CVJ アクスル	△ 23	104	12	133	36		
合計	15	281	45	320	30		

【注記事項】 2024年5月17日の決算説明会で'24年3月期実績を開示した後、複数の海外子会社で共通費配賦基準をより精緻化した。その結果、軸受他に配賦される共通費が減少、CVJアクスルに配賦される共通費が増加。
(営業利益への影響額)
・25年3月期1Q実績 軸受他+6億円、CVJアクスル△6億円
・25年3月期通期見通し 軸受他+23億円、CVJアクスル△23億円

次に7ページをご覧ください。新しい事業形態別の売上高と営業利益です。

まず、上段の売上高の増減②-①除く為替の欄をご覧ください。この数値から売価レベルのプラス38億円を除きますと、軸受他は107億円の減収、それからCVJアクスルは4億円の減収となります。

次に下段の営業利益ですが、注記事項に記載のとおり、海外子会社での共通費配賦基準をより精緻化した影響により、軸受他に配賦される共通費が減少し、CVJアクスルに配賦される共通費が増加しております。

その影響額が第1四半期では軸受他でプラス6億円、CVJアクスルがマイナス6億円、通期の見通しでは軸受他がプラス23億円、CVJアクスルがマイナス23億円でございます。今回表示しております数字は、その影響が含まれております。

営業利益の増減ですが、軸受他についてはマイナス5億円の減益となっております。これは為替のプラスとか売価の向上、比例費の良化、固定費圧縮等の増現金要因はありましたが、やはり規模減が物量で107億円減っておりますので、その影響をカバーできず減益となっております。

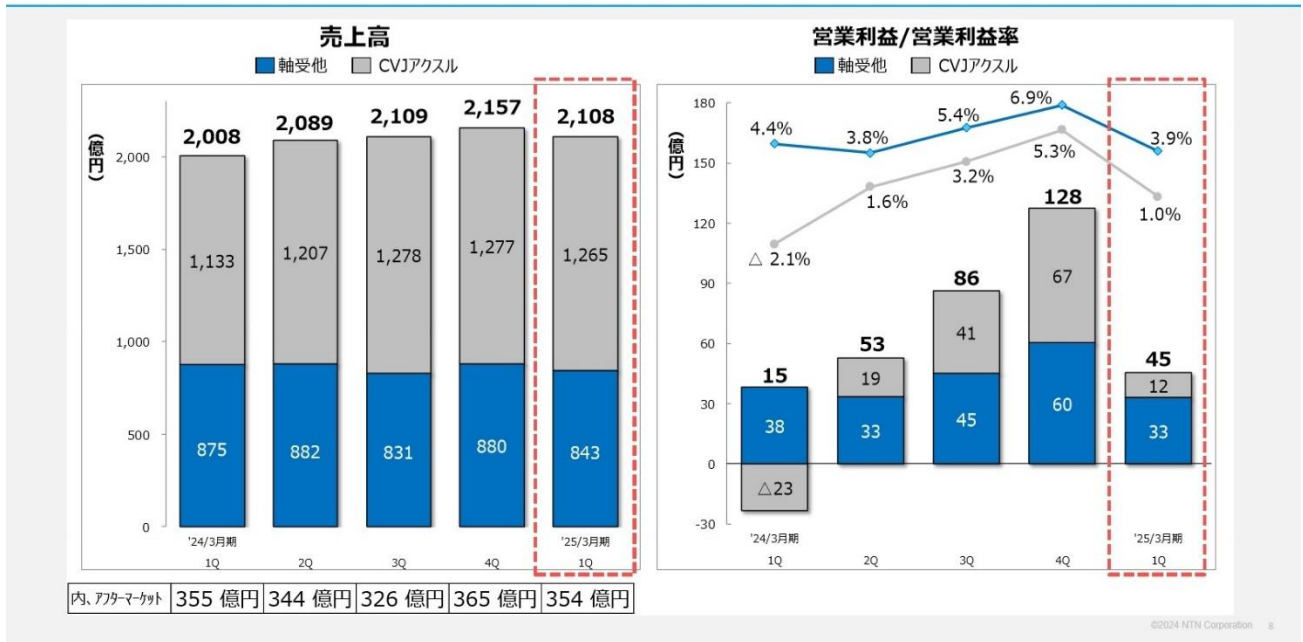
あとCVJアクスルについては、為替のプラスや売価向上、比例費の良化等で規模減の影響をカバーし、36億円の増益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



⑤事業形態別業績（四半期推移）



8 ページをご覧ください。新しい事業形態別での売上高と営業利益額、利益率の四半期別の推移です。

右側の折れ線グラフの傾向を見ていただきたいのですが、やはり前期と同様にインフレコストが先行し、売価転嫁が遅れること、および前第 4 四半期から規模減の影響もありまして、第 1 四半期の営業利益率は第 4 四半期と比較すると低下しております。

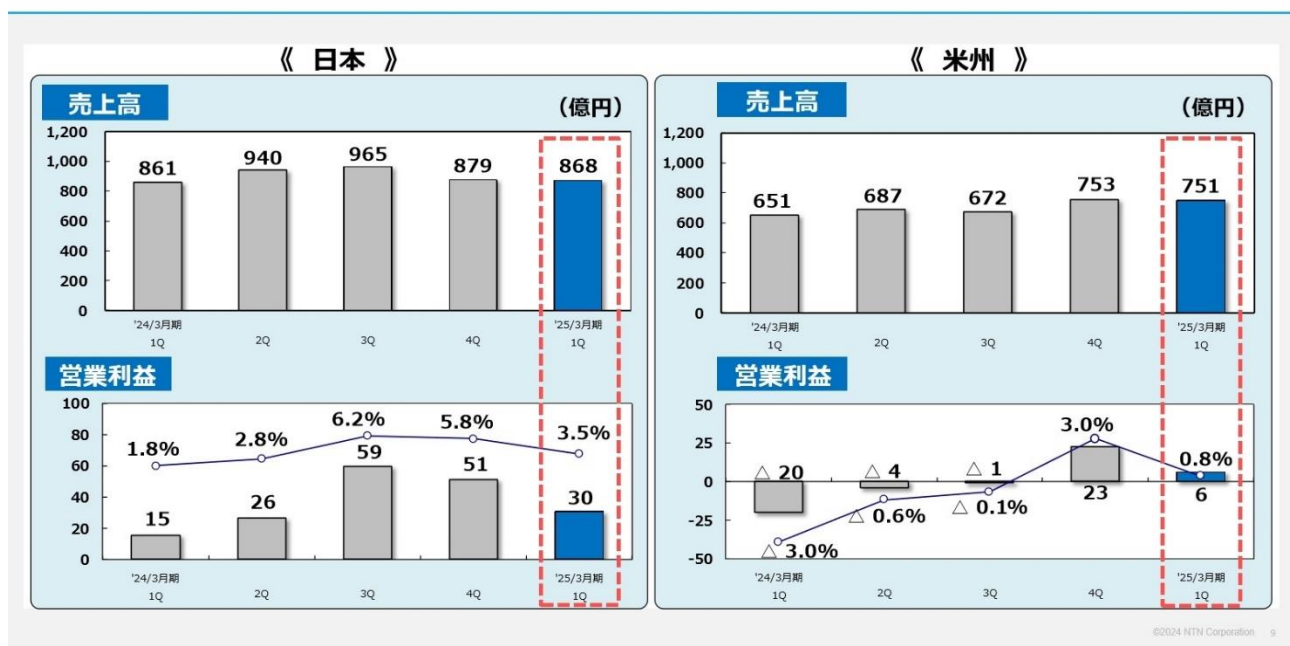
しかしながら、今期も前期と同様に第 2 四半期、第 3 四半期、第 4 四半期と、徐々に営業利益率は改善していくと見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



⑥-1 所在地別 売上高・営業利益（日本・米州）



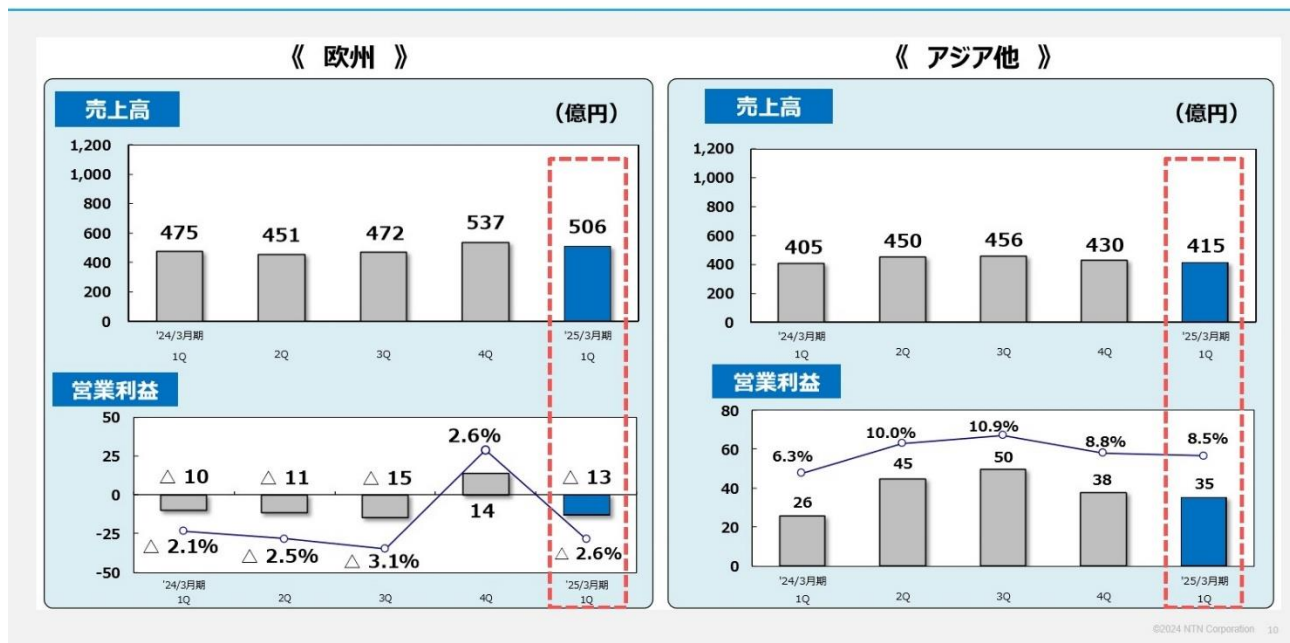
次に、9 ページをご覧ください。所在地別の売上高、営業利益の四半期別推移です。上段が売上高、下段が営業利益、左側が日本、右側が米州でございます。先ほどもご説明したとおり、四半期ごとは跛行性がございますので、前期の第1四半期との比較でご説明いたします。

日本については売価レベルの向上を主因に15億円の増益となり、営業利益率は1.7ポイント改善しております。また右側の米州につきましては、売価レベルおよび比例費の改善を主因に、26億円の増益となりまして、黒字化しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





次に、10 ページをご覧ください。同じく所在地別売上高、営業利益の四半期別推移です。左が欧州、右がアジア他です。

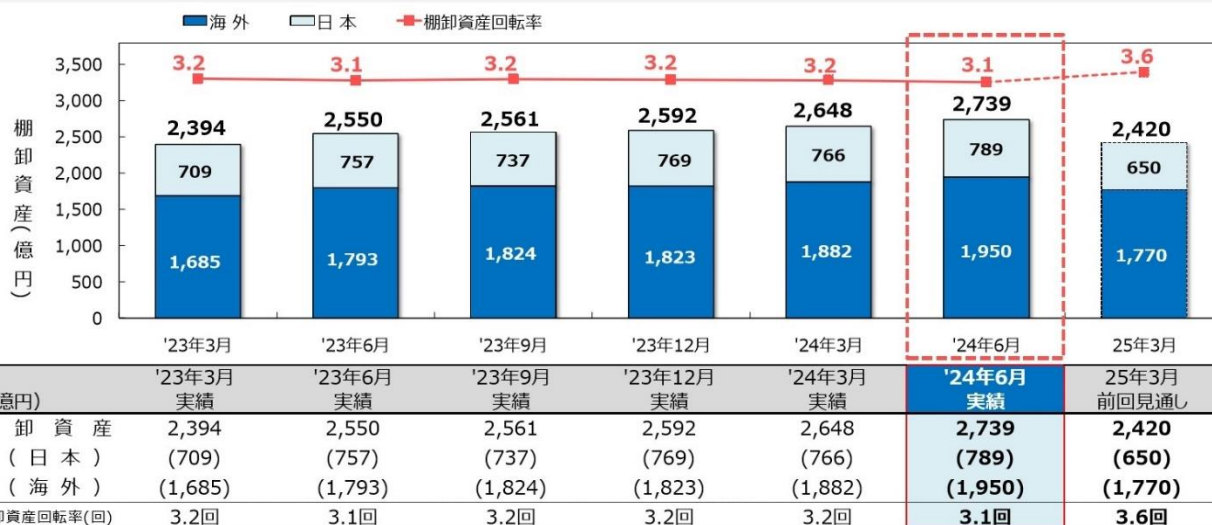
まず欧州につきましては、前年同期と比較しまして、為替売価レベルを除く物量ベースの売上高が32億円の減収となっております。この規模の減少の影響をカバーし切れず、前期の第1四半期比で3億円の減益となっております。

一方、右側のアジア他につきましては、中国での販売減はありましたが、安定した利益率を計上しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

⑦ 棚卸資産

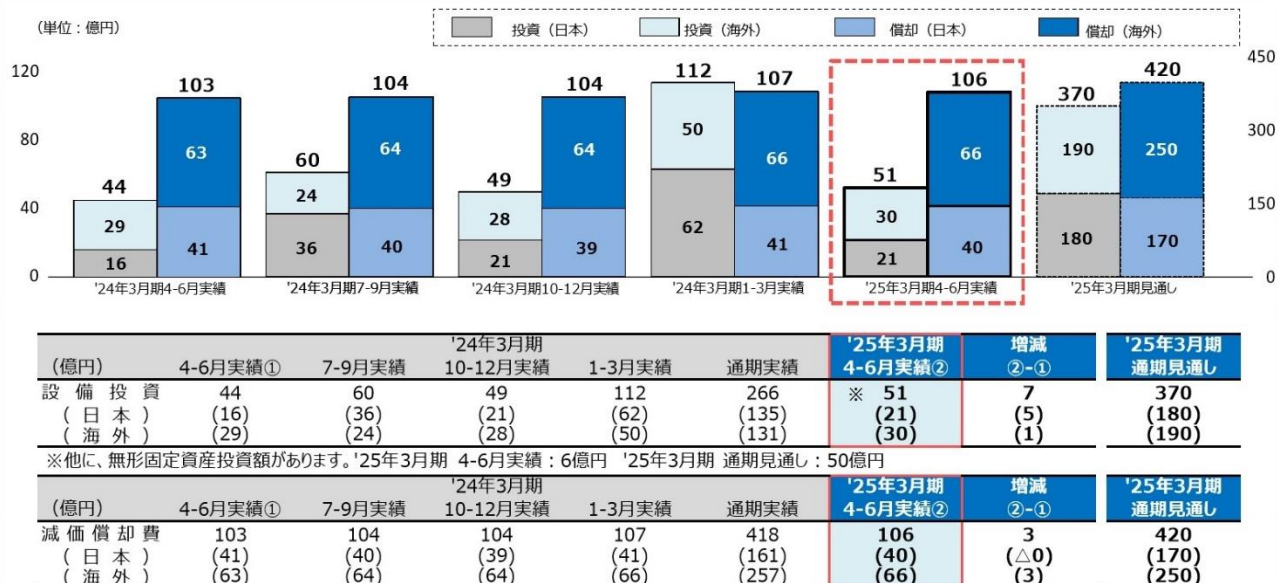


©2024 NTN Corporation 11

次に、11 ページをご覧ください。棚卸資産の四半期別推移です。24 年 6 月末の棚卸資産残高は、2,739 億円、前期末比でプラス 91 億円の増加ですが、この中には為替の影響がプラス 101 億円含まれておりまして、物量ではマイナス 10 億円の減少となりました。

また 2025 年 3 月期の見直しは、2,420 億円、回転率は 3.6 回転を掲げておりますので、この達成に向け、特に仕掛品、部品、材料在庫の圧縮を進めてまいります。

⑧ 設備投資・減価償却費



©2024 NTN Corporation 12

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

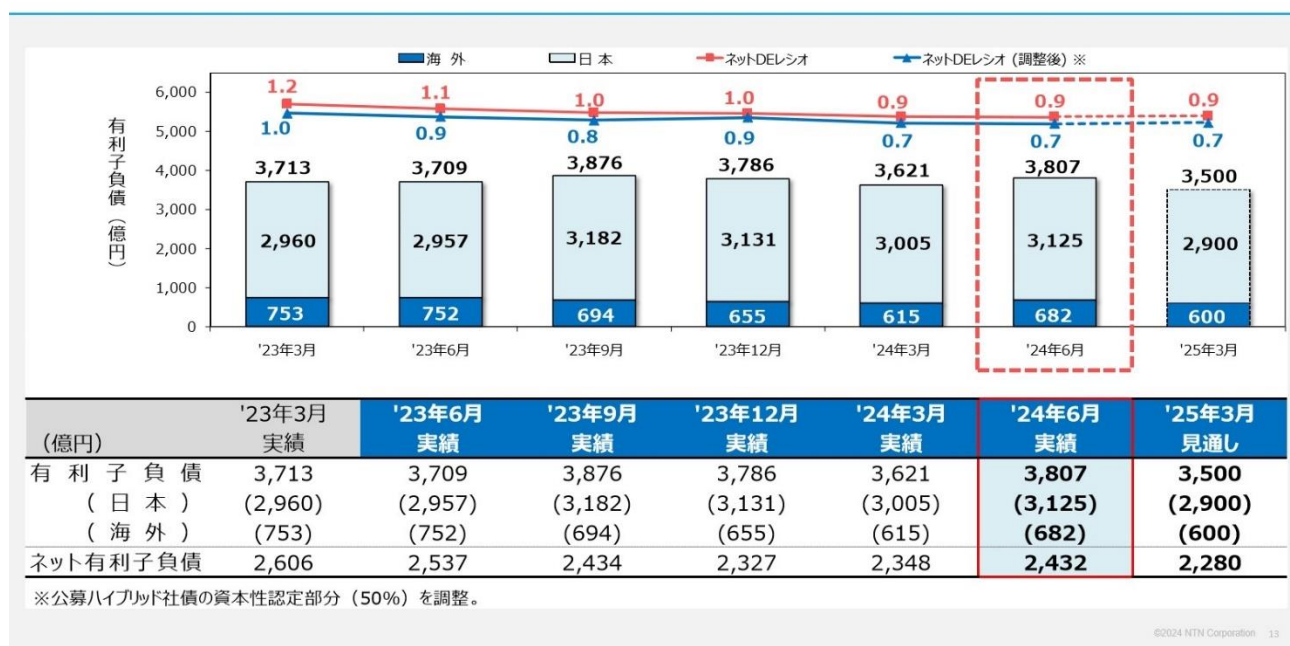
次に、12 ページをご覧ください。設備投資と償却費の四半期別の推移です。

第1四半期の設備投資額は51億円、減価償却費額は106億円となりました。第1四半期の設備投資に若干の遅れがありましたが、投資額、償却費ともに通期見通しの線上と考えております。

なお、第1四半期の設備投資額51億円の地域別の内訳を申し上げますと、国内で21億円、米州で8億円、欧州で16億円、アジア他で6億円ございました。

⑨有利子負債

NTN



続きまして、13 ページをご覧ください。有利子負債の推移です。下段の表の一番下に、ネット有利子負債が記載されております。24年6月末のネット有利子負債は2,432億円で、前期末比で84億円増加となりました。

これは次のページでご説明いたしますが、売掛債権の流動化を一時停止した影響、ならびに税金の支払等でネット有利子負債は一時的に増加しましたが、第2四半期以降は減少していくと見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

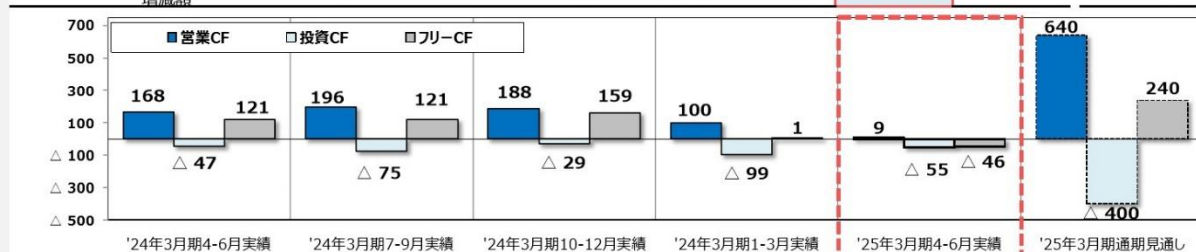
SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

⑩ キャッシュ・フロー

(※)条件悪化のため、売掛債権流動化を一時的に見送った結果、営業CF悪化

NTN

(億円)	'24年3月期					'25年3月期	'25年3月期
	4-6月実績①	7-9月実績	10-12月実績	1-3月実績	通期実績	4-6月実績②	②-①
I. 営業活動による キャッシュ・フロー	168	196	188	100	651	(※) 9	△158
II. 投資活動による キャッシュ・フロー	△47	△75	△29	△99	△250	△55	△8
I + II. フリー・キャッシュ・フロー	121	121	159	1	401	△46	△166
III. 財務活動による キャッシュ・フロー	△97	139	△124	△220	△302	105	202
IV. 現金及び現金同等物 に係る換算差額等	40	10	△18	35	67	43	4
V. 現金及び現金同等物の 増減額	63	270	19	△187	166	103	40



©2024 NTN Corporation 14

次に、14 ページをご覧ください。キャッシュ・フローの四半期別推移です。この第1四半期の営業キャッシュ・フローが9億円と、前年同期比に比べますと158億円の落ち込みとなっております。

この理由としましては、当社は資金調達方法の多様化の一環で、従来から売掛債権の流動化を活用しておりますが、本年4月から一部商品の金利コストが借入金の金利を上回る状態になったため、一時的に売掛債権の流動化の実施を見送っております。その影響額が約130億円、第1四半期の営業キャッシュ・フローの悪化要因となっております。

それから、これは売掛債権の流動化を一時的に停止した影響でございますので、第2四半期以降の営業キャッシュ・フローには影響はございません。なお、既に金利メリットのある置換え商品の検討をしておりますし、通期のキャッシュ・フローの見通しにも影響しない見込みでございます。

私からの説明は以上です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

質疑応答

長尾 [M]：山本 CFO、ありがとうございました。それでは、質疑応答へ入らせていただきます。

はじめに JP モルガン証券の佐野様、ご質問をお願いいたします。

佐野 [Q]：ご説明ありがとうございました。JP モルガンの佐野と申します。

まず 1 点目なのですが、第 1 クォーターの売上高と営業利益の、社内の計画比での着地の規模感ですとか、ちょっとでこぼこがあれば教えていただきたいのと、3 カ月前と比較したところで変化等もあれば、添えてお願いします。これが 1 点目です。

鶴飼 [A]：鶴飼です。佐野さん、ありがとうございます。

まず着地はほぼ売上、利益、これぐらいかなというところですが、実際、グローバルの今の状況からいきますと、やはり中国、それから欧州のマーケットの回復が遅れております。アメリカも強くない。アジアだけが計画比で順当にきている状況で、国内もまだ戻りが強くないというんですか。そんな状況であるかなと見ております。

そこへ持ってきて、一昨日ぐらいから為替が大幅に動き出していますので、今後この辺の状況、それから特にアメリカの大統領選挙とか、グローバルの政治的な話とか、いろんな変化要因が特に今年は多く出てきておりますので、この辺をしっかりと見定めながら、今後の事業を進めていく必要があるというのが、全体的なお話でございます。以上です。

佐野 [Q]：ありがとうございます。それから今回、上期のご計画をご開示いただいているのですが、軸受と CVJ で上期の売上と営業利益の、ご計画の開示があれば教えていただきたい、その引き算のところで、今回上期から下期の増減はいただいているんですけれども、1Q から 2Q での動きみたいなものも、ざっくりでかまいませんので教えていただければ幸いです。お願いします。

山本 [A]：それでは、山本のほうからお答えいたします。

まず上期の売上見通し 4,300 億円、これを軸受と CVJ に分けると、ちょっと端数があるんですが、軸受他が 1,763 億円、CVJ アクスルが 2,537 億円を見込んでおります。

それから営業利益、この 110 億円は軸受他が 61 億円、CVJ アクスルが残り 48～49 億円を見込んでおります。これが上期の内訳でございます。

次に、第 2 四半期の内訳のほうよろしいですか。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



佐野 [Q]：1Q から 2Q の営業利益の変化は、そこまで上下に比べて大きくないと思うんですけども、変化要因とかポイントがあれば教えてください。

山本 [A]：先ほどのまず物量で、第 1 四半期と第 2 四半期、まず売上のほうから申し上げますと、第 1 四半期が 2,108 で、第 2 四半期が 2,192。この中に為替の影響でマイナスがございますので、物量他では 190 億円ほどプラスになると見込んでおります。

それで第 1 四半期の営業利益が 45 億円、第 2 四半期が 65 億円でございますが、今申し上げた物量の影響による規模増が 60 億円ほど見込んでおります。あと為替、これは 1 ドル 145 円で見込んでおりますので、為替のマイナス、それとあと固定費のマイナスを一応見込んでおります。

佐野 [Q]：ありがとうございます。最後 1 点、鵜飼社長にぜひ伺いできればと思うんですけども、先ほどご回答いただいたようにだいぶ事業環境も、いつもながらというか、非常に不透明な状況が出てきているわけですけども、今、中計を出されたばかりで、構造改革の考え方ですとか、やっぱり一段と売上 3 年間、需要も含めてあまり伸びなくて、採算性を改善させていくところですけども。

自動車でいくと日系メーカーさん中心に、ちょっと減産の見通しですとか、産機のほうも中国、欧州も回復してくるか分からない部分の中で、さらに構造改革をやらなきゃいけないとか、3 カ月なのであまりその部分は変わらないかもしれませんが、今のところ行われていることのご紹介ですとか、認識の部分についての確認をお願いしますでしょうか。

鵜飼 [A]：従前から進めております売価の適正化ということで、この活動はこれから先も継続的に進めていくと。グローバルで営業の最前線の皆さんが、お客様と常に価格交渉している状況が続けております。その結果、先ほどご説明しましたように売価といたしますか、売上高の増につながっているところがあるんですけども、もう一つは比例費ですね。これの削減をさらに進めていくと。

特に先ほど申し上げましたように政治リスクであるとか、いろんな国際間のリスク、それからいろんな自然災害のリスクも含めて、BCP の強化を図っております、これまでやはり中国に軸足を置いていたところ、これはもちろん継続はするんですけども、さらにインドとかほかの地域で競争力のあるものを、今チームを組んで世界中から最適調達をしていくことを、継続して進めております。

その辺で、われわれの比例費部分の強化を図っていくということで、トップラインはマーケットによって変わってきますけれど、体質強化をして、稼ぐ力の強化をずっと継続してやっていくことを続けていきたいと思っていますし、そういうふうに行動を打っています。以上です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



佐野 [M]：分かりました、ありがとうございます。私からは以上です。

長尾 [M]：佐野様、ありがとうございました。

続きまして、大和証券の田井様。ご質問をお願いいたします。

田井 [Q]：山本さんにお伺いします。今教えていただいた部門ごとの上期のご計画ですけれども、一つ思ったのは、CVJ は上下だと下のほうが、売上高が少なくなりますか。もし上期の数字の記録間違っていたら、申し訳ないですけれども。

上下だと下のほうが、売上高が少なくなるのが、なんでなんだろうって一つ思ったのと、あと軸受のほうは1Qと2Qだと、すごく細かいんですけども、2Qの利益のほうが少ないんですね。

その二つがちょっと、まず気になったんですけども、細かい増益要因はいらないので、ストーリーだけでいいので、こういう実は理由があって、みたいなのがありましたら教えていただければと思います。

山本 [A]：まず1番目のご質問の上下売上のところ、これは為替の影響と売価レベルを除きますと、軸受がプラス55、上下で。それとCVJアクスルは減少ではございません。プラスで横ばいなのですが8億円ほどのプラスを見込んでおります。これが一つ目でございます。よろしいでしょうか。

田井 [Q]：CVJって、上期で2,537でしたっけ。

山本 [A]：はい。上期2,537、下期2,493。それでマイナス43と数字では見えるのですが、為替の影響が、これは下期ドル145円、ユーロ160円で見えておりますので、その影響がマイナスで67ほど入っております。

田井 [Q]：今期は145、160ではないんですでしたっけ。1Q分があるから。

山本 [A]：そう、1Q分プラスがございました。

田井 [Q]：分かりました。クリアです、大丈夫です。

山本 [A]：それからもう一つが第1と第2で、軸受の利益のところですか。

田井 [Q]：そうですね。上期で61とおっしゃいましたよね。軸受の利益計画って1Qで32出ているので、2Qのほうが減ってしまうのではないかと。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



山本 [A]：はい、減ります。この中には先ほど申し上げましたように、為替の影響でのマイナスが入っております。それと、あと固定費関係のプラスも第1四半期、かなり経費関係がぐっと抑えられましたので、その中で乖離が第2クォーターにくることで、固定費の増も見込んでおります。

その結果、若干の減益という見通しでございます。

田井 [Q]：分かりました、ありがとうございます。

あと二つ目、これは社長の鵜飼さんにお話しいただいてもいいですし、山本さんの方でもいいんですけれども、産機向けのなんとなく今、地域ごとにおおよそのお話をいただきましたが、産機向けの需要環境で3カ月前との違いを少し教えていただきたいなと思っています。

業種別で良くなってきたもの、良くなってきたものとかありましたら、何かご紹介いただけますでしょうか。

鵜飼 [A]：鵜飼です。期首にご説明しておりますように、総じて良くない状況は続いておりますが、中国の鉄道車両、高速車両向けであるとか、あとは航空機向け。特にわれわれはヨーロッパでつくっているものが多いですが、この二つの業種に関してはやはり好調に推移している状況です。

それ以外、特にアメリカの農機であるとか、タイ、アジアもそうですね。農機関係が落ちていますし、この状況は期首から変わっていません。建機、それからその他の産業機械関係も、状況としてこの3カ月間では大きな変化をしていないと。

ただ、工作機械メーカーさんといろいろお話をさせていただく中で、一部の半導体の需要が高まりつつあるので、その辺から工作機械がいつもの先行指標として、下期、動き出すと、それにつれて産業機械の回復が遅ればせながらも出てくるかなというのが、今の見込みと認識しております。以上です。

田井 [Q]：切り口を変えて中国だけを取り出したときに、どうですか。ちょっと良くなってきたりしますか、風向きとして。

日刊工業か何かで鵜飼さんのインタビューが出ていて、全然この1Qはスタート良くないみたいなコメントだったので、そうかと思って読んでいたんですけれども、そうはいつでも、ちょっと風向きの変化があったりしないかなと思ったんですけれども、駄目ですか。

鵜飼 [A]：われわれが販売させていただいているマーケット自体の変化が、まだ良い方向には出てきていない実態は、前回、田井さんから同じご質問をいただいて、ほかの業界といえますか、メ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ーカーさんでは一部、回復の兆しがあるという話が出ていますとおっしゃっていただいたんですが、あのときと同じ状況がまだ、われわれには続いている認識です。

田井 [Q]：長くなってごめんなさい。悪化しているものは特にはないですか。地域とか業種とかで思っていた以上にひどくなっているところは、おありになったりしますか。それも逆にあまりないですか。

鵜飼 [A]：特に中国であれば、日系自動車メーカーさんの販売がやはり戻らなくて、さらに落ちているところと、それからもう一つは米州、欧州を含めて、われわれがEVの新たな商売をいろいろ取れたんですけれども、各自動車メーカーさんが今のEV市場の高原状態に少しなっているところから、量産開始を半年とか、長いものでは2年ぐらい遅らせますという状態が少しずつ出てきているところが、以前の3月、4月頃の状況からは変わっているところだと思います。

田井 [M]：分かりました。ありがとうございます。またよろしく願いいたします。

長尾 [M]：田井様、ありがとうございました。

続きまして、みずほ証券の伊藤様。ご質問のほど、よろしく願いいたします。

伊藤 [Q]：みずほ証券の伊藤です。ありがとうございます。質問2点ありまして、1点目の質問が売価というか、価格転嫁のところの動向について、もう少し教えていただけますでしょうか。

大体、イメージで結構ですけれども、今年度の価格転嫁によって利益が上がってくるペースや、タイミングで、例えば下期で最後のほうに近い妥結になってくるのか、それとも四半期ごとまんべんなくという可能性が出てくるのか。この辺りを、産業機械と自動車で見方が違ってくるとは思いますが、今どのようなもくろみを持っていますでしょうか。

鵜飼 [A]：鵜飼です。ありがとうございます。

これは例年の一つの大きな傾向ですけれども、第1クォーターから第4クォーターに向けて、徐々に改善していく。

特に第4クォーターで最後、交渉の決着するケースが多いものですから、そういう意味では同じパターンが今年も出ることを見込んでおります。ただ、数字につきましては、今出ている滝グラフが全体の数字です。

伊藤 [Q]：ありがとうございます。質問の意図としては、例えば価格転嫁が期末に妥結すること、数量面で確度を持って戻ってくるもの、そうではないものに鑑みると、どうしても年度末に話が寄ってきてしまうのではないかと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



上期時点の終了したとき、もしくは第3クォーターが達成したときに対して、どれだけ進捗率が上がってこられるかどうかを少し気にしています。

特に去年でいうと、おそらく完成車メーカーの一部のところから大きく値上げ交渉が妥結した分があるので、利益の額として第4クォーターは高く出たと推察するわけですが、今回も同じようにできるかどうかでいうと、どうでしょう。

私の理解だと、あのときは過去のも含めてお話を妥結できたものも、入っていたのではないかと推察するわけですが、いかがですか。

鶴飼 [A]：実際は今、例えば日本国内だけをとってみましても、政府を上げて人件費であるとか、エネルギー費用の値上がり分はきちんと価格に転嫁しなさいという指導の下に、いろいろGメンが入って、各企業の評価をされて、それが公表されるような動きにまでなっているんです。

これは中小の企業様にはかなり明確な対応をされているんですけども、やはりある程度の規模のサプライ関係の中では、まだまだ厳しい交渉になっています。当然、われわれもエビデンスを用意して、それに基づいて説明して交渉するわけですが、そんなに簡単にはいっていないことから、やはり交渉は長引くことが現在も続いております。

去年は去年分、去年分の中でもまだ取り切れていない部分を、どう今年取るか。それと今年の分をどう交渉して、最終的に第4クォーターに向けて、できるだけ早く決着はしたいんですけども、実際にはそう簡単にはいかないだろうと見込んでいます。

伊藤 [Q]：分かりました。最後1点ですけども、今回のご計画の特別損失の見通しについて、もう少し教えていただけますでしょうか。

今回の資料でいうと3ページを拝見していると、特別損失が下期見通しに80と入っているわけですが、逆にいうと第2クォーターまででいうと、何かパッケージ的な構造改革のものが出てこなくて、このお話は、われわれは年度末のほうに待たなければいけないのかどうか。その辺りについて教えていただけますでしょうか。

山本 [A]：山本でございます。これは中期経営計画の説明会でご説明させていただいたのですが、構造改革、欧州、米州、中国、日本の地域で、3年間でやっていきますと。

その中で今期につきましては、規模の落ちが大きな中国のところの生産余力が出ているところを、どう削減していくかを織り込んでおります。これは詳しくは申し上げられないのですが、製造拠点の統合、それとか生産設備の廃棄と、それから余剰人員の削減。こういうことを織り込んでおまして、これが下期に出てくると。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



それからあと欧州、これは昨年もご説明いたしましたが、ドイツの製造拠点を閉鎖することを既に決定しております。またフランスの小さな製造拠点の閉鎖も、もう従業員にも通知しております。

前期末で特にドイツの退職費用等は見積り計上しておりますが、今後は固定資産の不要な設備の減損、廃棄が下期に出てくるかと。それと欧州、まだ規模的にもかなり厳しい状況ですので、場合によってはさらに踏み込んだ計画も、これを下期に織り込むと、その合計が80億円と見込んでおります。

以上ですが、よろしいでしょうか。

伊藤 [M]：はい、ありがとうございました。以上です。

長尾 [M]：伊藤様、ありがとうございました。それでは野村証券の王様、ご質問をお願いいたします。

王 [Q]：野村証券の王でございます。

繰り返しの質問になってしまって申し訳ないのですが、通期で利益増減の修正バージョンはございますか。それとも、従前から変わってないかたちでしょうか。

山本 [A]：今回、通期の業績予想は変更しておりませんので、変わっておりません。

王 [Q]：中身の利益増減、内訳項目も変わっていらっしゃるのでしょうか。

山本 [M]：中身と申しますと。

王 [Q]：規模効果とか、為替影響、比例費などの内訳項目です。

山本 [A]：それも通期が売りも営業利益も変えておりませんので、通期の見通しの洗い替えは今やっております。

王 [Q]：分かりました、ありがとうございます。人件費のところをお伺いしたいんですけども、1Qのところでは前年同期比でマイナス5億円程度でして、上期から下期に対してはちょっとプラスで効いてくるようなかたちですけども、こちらはご計画どおりの進捗という理解でよろしいでしょうか。

山本 [A]：まず第1四半期で、前年比でマイナス5億円がございます。この主な要因は、欧州で1月からベースアップをしておりますので、それが第1四半期、第1四半期比較だと人件費の増加として出てきます。これがこの5億円のうち、約8億円のマイナスがございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



一方、米州のほうは生産性の向上等が徐々に進んでおりまして、第1四半期でもプラス3億円ぐらいの要因がございます。

次に上下のところですが、上下では人件費でプラス14億円見ておりますが、これは今申し上げました米州での生産効率が進むことで、人件費の圧縮を主に米州で見込んでおります。

以上でよろしいでしょうか。

王 [Q]：詳細に、どうもありがとうございます。あと軸受他って、内訳項目を開示いただくことでできますでしょうか。もしあればなんですけれども。

山本 [A]：軸受他の、要は他が何ですかというご質問だと思いますけれども、これは申し訳ございませんけれども、軸受他1本でご容赦いただきたいと思います。

王 [Q]：自動車とか産業機械、アフターマーケットにおけるのも難しいかたちですか。

山本 [A]：それは、利益となるとかなり無理ですね。売りのところは徐々に、そのところは開示していきたいと思います。

すみません、今期からこの新しい事業形態になりまして、かなり走りながらのところがございますので、現時点では申し訳ございません。

王 [Q]：承知いたしました。ありがとうございます。

もう1点、価格転嫁のところですが。期末に向けて妥結していくかたちではあると思いますが、10-12月期、第3クォーター、海外の期末でもあるので、ここで一定程度、価格転嫁効果が出てきたりするのは、期待していいでしょうか。それとも、どちらかというとならばQ4に寄るようなところでしょうか。

山本 [A]：どちらかというとならば、Q4に寄るほうが大きいと考えています。特に海外、今おっしゃられましたように12月決算なので、そこまでというのは大体日本的な考え方でございまして、新年度の予算が取れてからというので、1月にずれ込むケースも多々ございますので。やはりQ4のほうが大きいとお考えいただければと思います。

王 [M]：ありがとうございます。大変よく分かりました。私からは以上です。

長尾 [M]：王様、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして弊社 NTN 株式会社、2025年3月期第1四半期決算 IR 説明会を終了いたします。本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



鶴飼 [M]：ありがとうございました。

山本 [M]：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

